

# 西洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
西洋史概論	グローバル・ヒストリーの中の西洋史（前近代）	2	杵淵 文夫	3	金	2	ヨーロッパ史概論
西洋史概論	グローバル・ヒストリーの中の西洋史（近現代）	2	杵淵 文夫	4	金	2	ヨーロッパ史概論
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	3	金	4	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	4	金	4	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	3	水	2	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	4	水	2	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	フランス語文献講読	2	矢口 啓朗	3	水	4	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	フランス語文献講読	2	矢口 啓朗	4	水	4	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史各論	中世イングランドの証書と社会	2	有光 秀行	6	月	4	ヨーロッパ史各論
西洋史各論	Л・Д・トロツキーとロシア革命	2	浅岡 善治	5	水	3	ヨーロッパ史各論
西洋史各論	タキトゥスの見たローマ帝国	2	大清水 裕	集中			ヨーロッパ史各論
西洋史各論	「インドとイギリス」再考—帝国関係から開発援助・G20	2	秋田 茂	集中			ヨーロッパ史各論
西洋史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	5	火	4	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	6	火	4	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討	2	浅岡 善治	5	木	2	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討	2	浅岡 善治	6	木	2	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世後期ヨーロッパ史の研究	2	阿部 ひろみ	5	火	2	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世後期ヨーロッパ史の研究	2	阿部 ひろみ	6	火	2	ヨーロッパ史演習

科目名：西洋史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：杵淵 文夫 (非常勤講師)

講義コード：LB35209, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史概論】

1. 授業題目： グローバル・ヒストリーの中の西洋史 (前近代)
2. Course Title (授業題目) : European History in Global History / Pre-Modern
3. 授業の目的と概要：  
本授業では、近世までの世界的なネットワークの観点から古代から近世までのヨーロッパ史を概観する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)  
This course introduces the European History from the ancient to early modern times in terms of the global network.
5. 学習の到達目標：  
近世までのヨーロッパ史の要点を把握するとともに、ヨーロッパ史を世界的なネットワークの変遷の中に位置づけて理解することができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)  
The goals of the course are:
  - (1) to obtain basic knowledge about European history until pre-modern,
  - (2) to understand the history of Europe in the context of global network changes.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. 授業全体の説明・講義「草原とオアシスの道」
  2. 講義「ローマ帝国と海の道」
  3. 講義「民族移動と海の道」
  4. 講義「遊牧系帝国とローマ帝国」
  5. 講義「アジアの帝国秩序」
  6. 講義「イスラム・ネットワークの繁栄と衰退」
  7. 講義「分裂の時代における大陸と海洋」
  8. 講義「モンゴル・ネットワークの拡大」
  9. 講義「大モンゴルのユーラシア・ネットワーク」
  10. 講義「ユーラシア・ネットワークの世界」
  11. 講義「大陸ネットワークの危機、海洋ネットワークの混乱」
  12. 講義「朝貢体制と海洋ネットワーク」
  13. 講義「ネットワークからのヨーロッパの遮断」
  14. 講義「オスマン帝国の台頭」
  15. 講義「大西洋ネットワークの確立」・授業のまとめ
8. 成績評価方法：  
授業受講状況 (コメントペーパーを利用) 50%、レポート 50%。
9. 教科書および参考書：  
テキストとして北村厚『教養のグローバル・ヒストリー』ミネルヴァ書房、2018 年を使用する。
10. 授業時間外学習：  
毎回の授業のつながりが重要であるので、授業前に前回の授業ノートを読み返して復習する。また、授業中に紹介する関連文献を読んで理解を深めることを要望する。
11. 実務・実践的授業/Practical business：  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他： なし。

科目名：西洋史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：杵淵 文夫 (非常勤講師)

講義コード：LB45207, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史概論】

1. 授業題目： グローバル・ヒストリーの中の西洋史 (近現代)
2. Course Title (授業題目) : European History in Global History / Modern
3. 授業の目的と概要：  
本授業では、近世までの世界的なネットワークの観点から近現代におけるヨーロッパ史を概観する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)  
This course introduces the Modern History of Europe in terms of the global network.
5. 学習の到達目標：  
近現代のヨーロッパ史の要点を把握するとともに、ヨーロッパ史を世界的なネットワークの変遷の中に位置づけて理解することができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)  
The goals of the course are to
  - (1) to obtain basic knowledge about Modern European History,
  - (2) to understand the history of Europe in the context of global network changes.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. 授業全体の説明・講義「グローバル・ネットワークの成立」
  2. 講義「ロシア、オランダの台頭」
  3. 講義「オランダ海洋帝国」
  4. 講義「アジアのネットワークの閉鎖」
  5. 講義「オランダからイギリスへ」
  6. 講義「近世ヨーロッパの戦争」
  7. 講義「近世ユーラシアの東西交流」
  8. 講義「環大西洋革命」
  9. 講義「ナポレオン戦争による変動」
  10. 講義「イギリス海洋帝国」
  11. 講義「不平等条約体制の成立」
  12. 講義「19 世紀グローバル・ネットワークの時代」
  13. 講義「近代アジア・ネットワークの再編」
  14. 講義「帝国による世界分割」
  15. 講義「20 世紀から現代へ」・授業のまとめ
8. 成績評価方法：  
授業受講状況 (コメントペーパーを利用) 50%、レポート 50%。
9. 教科書および参考書：  
テキストとして北村厚『教養のグローバル・ヒストリー』ミネルヴァ書房、2018 年を使用する。
10. 授業時間外学習：  
毎回の授業のつながりが重要であるので、授業前に前回の授業ノートを読み返して復習する。また、授業中に紹介する関連文献を読んで理解を深めることを要望する。
11. 実務・実践的授業/Practical business：  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他： なし。

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB35401, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：英語文献精読

2. Course Title (授業題目) : Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

専門書・論文を読む英文読解力を身につけると同時に、西洋史 k 研究についても理解を深めることを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purposes of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

5. 学習の到達目標：

英語で書かれた専門的論考の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The aims of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Oxford Dictionary of National Biography (『オックスフォード英国伝記事典』) から、中世のイングランド王・ウィリアム 2 世の伝記を読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読と解説です。1 回あたり 15 行くらいを読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%)。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。

9. 教科書および参考書：

読む部分のコピーを配布します。

10. 授業時間外学習：

所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB45401, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：英語文献精読

2. Course Title (授業題目) : Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

専門書・論文を読む英文読解力を身につけると同時に、西洋史 k 研究についても理解を深めることを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purposes of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

5. 学習の到達目標：

英語で書かれた専門的論考の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The aims of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Oxford Dictionary of National Biography (『オックスフォード英国伝記事典』) から、中世のイングランド王・ウィリアム 2 世の伝記を、前期に続いて読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読と解説です。1 回あたり 15 行くらいを読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%)。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。

9. 教科書および参考書：

読む部分のコピーを配布します。

10. 授業時間外学習：

所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB33202, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：ドイツ語文献講読

2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading in German

3. 授業の目的と概要：

演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The theme of this course is to read elementary German texts about the modern/contemporary European history with guiding some basic skills for historical research.

5. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To create the basic ability to read and comprehend German texts, and to learn some basic skills for academic researches.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について

2. 試訳の検討と討論(1)a

3. 試訳の検討と討論(1)b

4. 試訳の検討と討論(1)c

5. 試訳の検討と討論(1)d

6. 試訳の検討と討論(1)e

7. 小括(1)

8. 試訳の検討と討論(2)a

9. 試訳の検討と討論(2)b

10. 試訳の検討と討論(2)c

11. 試訳の検討と討論(2)d

12. 試訳の検討と討論(2)e

13. 小括(2)

14. 課題発表(1)

15. 中間的総括(1)

8. 成績評価方法：

出席30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

9. 教科書および参考書：

Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002. 日本語の参考文献としては、木村靖二『第一次世界大戦』ちくま新書、2014年。

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB43202, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：ドイツ語文献講読

2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading in German

3. 授業の目的と概要：

演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The theme of this course is to read elementary German texts about the modern/contemporary European history with guiding some basic skills for historical research.

5. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To develop the basic ability to read and comprehend German texts, and to learn some basic skills for academic researches.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について

2. 試訳の検討と討論(1)a

3. 試訳の検討と討論(1)b

4. 試訳の検討と討論(1)c

5. 試訳の検討と討論(1)d

6. 試訳の検討と討論(1)e

7. 小括(1)

8. 試訳の検討と討論(2)a

9. 試訳の検討と討論(2)b

10. 試訳の検討と討論(2)c

11. 試訳の検討と討論(2)d

12. 試訳の検討と討論(2)e

13. 小括(2)

14. 課題発表(1)

15. 中間的総括(1)

8. 成績評価方法：

出席30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

9. 教科書および参考書：

Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002. 日本語の参考文献としては、木村靖二『第一次世界大戦』ちくま新書、2014年。

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他： 面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：矢口 啓朗（非常勤講師）

講義コード：LB33410, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目： フランス語文献講読

2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading in French

3. 授業の目的と概要：

- (1) ヨーロッパ史研究において重要な地位を占めるフランス語の基礎的読解能力を高める。
- (2) 19 世紀ヨーロッパ国際政治史についての基礎的知識を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The aims of this course are

- (1) to develop basic reading skills of French, which occupies an important position in study of European history;
- (2) to increase knowledge of history of 19th European international relationships.

5. 学習の到達目標：

- (1) フランス語文献の基本的な読解能力を身につける。
- (2) 19 世紀ヨーロッパ国際政治の特徴や構造を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

At the end of this course, participants are expected

- (1) to get basic skills about reading of French books;
- (2) to understand features and construct of 19th European international relationships.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

19 世紀ヨーロッパ国際政治史について、フランス語で書かれた文献を序章から読み進めていく。指定したテキストの範囲について、あらかじめ和訳を作ってから授業に臨むこと。また、テキスト読解中に出てきた歴史的概念や専門用語についても調べておくこと。授業では基本的には一文ずつ、指名された学生が訳文を発表した上で、討論を通じて訳文を検討し、より正確な訳文を作成していく。学期末にはそれまでに訳した文章を各自でまとめ直し提出してもらう。また学期末には、ヨーロッパ史の理解を各自で深めていくことを目的として、レポートを課題として提示する予定である。そこでアカデミックライティングの技法についても学んでゆく。

第 1 回：授業ガイダンス、授業の進め方やテキストの説明。

第 2-15 回：試訳の検討。第 11 回でレポートの課題を提示する。

8. 成績評価方法：

- (1) 出席及び授業態度 (30%)
- (2) 仏文和訳を通じた正確な読解力の修得度 (40%)
- (3) 期末レポート (30%)

9. 教科書および参考書：

授業には必ず文法書と辞書（電子辞書、スマートフォン、タブレット端末も可）を用意してくること。テキストは Jacques-Alain de Sédouy (2009), *Le concert européen : aux origines de l'Europe (1814-1914)*, Paris: Fayard. を予定している。テキストについては、初回にそのコピーを配布する。参考書は適宜授業内で指示する。

10. 授業時間外学習：

予習として、必ず指定されたテキストの箇所を読みこんだ上で、日本語訳を作成しておくこと。また復習として、テキストを読み返しつつ、日本語訳の修正版を作成すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他： オフィスアワー・連絡方法等については、第 1 回のガイダンスで説明する。



科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：矢口 啓朗 (非常勤講師)

講義コード：LB43410, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目： フランス語文献講読

2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading in French

3. 授業の目的と概要：

- (1) ヨーロッパ史研究において重要な地位を占めるフランス語の基礎的読解能力を高める。
- (2) 19 世紀ヨーロッパ国際政治史についての基礎的知識を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The aims of this course are

- (1) to develop basic reading skills of French, which occupies an important position in study of European history;
- (2) to increase knowledge of history of 19th European international relationships.

5. 学習の到達目標：

- (1) フランス語文献の基本的な読解能力を身につける。
- (2) 19 世紀ヨーロッパ国際政治の特徴や構造を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

At the end of this course, participants are expected

- (1) to get basic skills about reading of French books;
- (2) to understand features and construct of 19th European international relationships.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に引き続き、19 世紀ヨーロッパ国際政治史について、フランス語で書かれた文献を序章から読み進めていく。指定したテキストの範囲について、あらかじめ和訳を作ってから授業に臨むこと。また、テキスト読解中に出てきた歴史的概念や専門用語についても調べておくこと。授業では基本的には一文ずつ、指名された学生が訳文を発表した上で、討論を通じて訳文を検討し、より正確な訳文を作成していく。学期末にはそれまでに訳した文章を各自でまとめ直し提出してもらう。また学期末には、ヨーロッパ史の理解を各自で深めていくことを目的として、レポートを課題として提示する予定である。そこでアカデミックライティングの技法についても学んでゆく。

第 1 回：授業ガイダンス、授業の進め方やテキストの説明。

第 2-15 回：試訳の検討。第 11 回でレポートの課題を提示する。

8. 成績評価方法：

- (1) 出席及び授業態度 (30%)
- (2) 仏文和訳を通じた正確な読解力の修得度 (40%)
- (3) 期末レポート (30%)

9. 教科書および参考書：

授業には必ず文法書と辞書 (電子辞書、スマートフォン、タブレット端末も可) を用意してくること。テキストは Jacques-Alain de Sédouy (2009), *Le concert européen : aux origines de l'Europe (1814-1914)*, Paris: Fayard. を予定している。参考書は適宜授業内で指示する。

10. 授業時間外学習：

予習として、必ず指定されたテキストの箇所を読みこんだ上で、日本語訳を作成しておくこと。また復習として、テキストを読み返しつつ、日本語訳の修正版を作成すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他： オフィスアワー・連絡方法等については、第 1 回のガイダンスで説明する。

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB61403, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目：中世イングランドの証書と社会

2. Course Title (授業題目)：Charters and society in medieval England

3. 授業の目的と概要：

中世イングランド史の史料と、その歴史学における利用の仕方を、具体的に理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this course is understanding medieval English sources and how to interpret them historically.

5. 学習の到達目標：

中世イングランド史の史料のあり方と、その歴史学における具体的な利用の仕方を、理解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The aim of this course is understanding medieval English sources and how to interpret them historically.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. イントロダクション

2. 中世イングランド史の史料とは

3. 同上

4. 同上

5. 証書をいかに読むか

6. 同上

7. 同上

8. デヴォン伯家とその証書

9. 同上

10. 同上

11. 同上

12. 証書の文言と社会

13. 同上

14. 同上

15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加状況（50 パーセント）とレポート（50 パーセント）。

9. 教科書および参考書：

教室で指示します。

10. 授業時間外学習：

教室で指示する参考文献を参照しながら、予習・復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治 (准教授)

講義コード：LB53307, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目： L. D. トロツキーとロシア革命

2. Course Title (授業題目)：L. D. Tortsy and the Russian Revolution

3. 授業の目的と概要：

革命家 L. D. トロツキー (1879-1940) の思想と行動から、20世紀ヨーロッパ史の展開過程を再検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The theme of this course is to reexamine the processes of European history in the 20th century through the thoughts and actions of Leon Trotsky (1879-1940), "the prophet outcast" of the Russian Revolution.

5. 学習の到達目標：

- ・ロシア革命とその参画者の視座から、ヨーロッパ近現代史の展開過程を把握する。
- ・ヨーロッパ近現代史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

・To grasp the outline of the modern/contemporary European history from the viewpoint of the Russian Revolution and its leader.

・To learn the ability to think "historically" on the basis of knowledge about history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 序論
2. 青春
3. 革命
4. 戦争
5. 十月
6. 講和
7. 内戦
8. 論争
9. 復興
10. 闘争
11. 敗北
12. 追放
13. 亡命
14. 刺客
15. 総括

8. 成績評価方法：

レポート試験：100%。

9. 教科書および参考書：

特定のテキストは使用しない。トロツキーの生涯については、アイザック・ドイッチャーの古典的トロツキー伝三部作：『武装せる予言者 トロツキー 1879-1921』、『武力なき予言者 トロツキー 1921-1929』、『追放された予言者 トロツキー 1929-1940』(改訂新版、山西英一ほか訳、新評論、1922年)が、今もなお最も優れた叙述を誇っている。『写真集トロツキー：時代の証言(1879-1940) ロシア革命を生きて』柘植書房、1990年；タリク・アリ／スィル・エヴァンズ『For Beginne

10. 授業時間外学習：

「各論」ながら講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他： なし。

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中， 単位数：2

担当教員：大清水 裕（非常勤講師）

講義コード：LB98817， 科目ナンバリング：LHM-HIS305J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目：タキトゥスの見たローマ帝国

2. Course Title (授業題目)：Roman Empire in Tacitus' Annals

3. 授業の目的と概要：

ローマ帝政期最高の歴史家とも言われるタキトゥスの『年代記』の読解を通して、歴史学における史料批判の初歩的な実践を行いながら、帝政初期のローマ帝国の政治と社会のあり方を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will understand the politics and society of early Imperial Rome, by reading critically Tacitus' Annals and other sources.

5. 学習の到達目標：

古代ローマ史にかかわる諸史料の特色を理解し、史料に対する批判的な見方を身につけるとともに、帝政初期のローマ帝国の政治と社会のあり方を根拠をもって説明できるようになることを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students understand the characteristics of sources of ancient Roman history and explain the politics and society of early Imperial Rome based on sources.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：タキトゥスという人物
2. 古代ローマにおける「帝政」のはじまり
3. ローマ帝国と軍隊
4. ローマ人とゲルマン人
5. ローマ帝国の地方都市
6. 北アフリカのローマ支配
7. ゲルマニクスの死とピソ裁判
8. セイヤヌスの台頭とティベリウスの隠遁
9. リヨンのクラウディウス演説
10. メッサリナの破滅
11. 帝室解放奴隷たちの台頭
12. 哲学者セネカ？
13. ローマとパルティア
14. ローマ大火とキリスト教徒
15. おわりに

8. 成績評価方法：

レポート

9. 教科書および参考書：

教科書：特に指定しない

参考書：

タキトゥス、国原吉之助訳『年代記（上・下）』岩波文庫、1981年。

スエトニウス、国原吉之助訳『ローマ皇帝伝（上・下）』岩波文庫、1986年。

本村凌二『地中海世界とローマ帝国』講談社学術文庫、2017年。

長谷川岳男・榎脇博敏『古代ローマを知る事典』東京堂出版、2004年。

10. 授業時間外学習：

参考書として挙げたタキトゥス『年代記』（国原吉之助訳、岩波文庫、1981年）に事前に目を通しておくことが望ましい。授業後は、授業で紹介する参考文献を読むことを推奨する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

semester：集中， 単位数：2

担当教員：秋田 茂（非常勤講師）

講義コード：LB98818, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目： 「インドとイギリス」再考——帝国関係から開発援助・G20へ

2. Course Title (授業題目): Reconsideration of “India and the UK” —— from Colonial relationship to Development Aid and the G20

3. 授業の目的と概要：

近現代の世界史（グローバルヒストリー）を考察する上で不可欠のテーマである、「植民地主義・帝国主義」、その克服としての脱植民地化・経済開発の問題を、19世紀—20世紀前半に最大の帝国を支配したイギリス帝国とアジアの最も重要な植民地であったインドとの関係を事例に再考し、西洋中心主義ではない、新たな世界史を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This class reconsiders the crucial research agendas of modern World-history (Global history), that is “Colonialism, Imperialism, Decolonization and Economic Development” in the 19th-20th centuries, focusing on the relationship between Great Britain and Br

5. 学習の到達目標：

- (1) 帝国主義、イギリス帝国の盛衰を、中枢＝周辺の相互連関を中心とする「関係史」として理解する。
- (2) 20世紀末—21世紀のインドの政治経済的台頭とイギリスのBrexitという現実を、歴史的に考察できる視点を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) To understand the rise and fall of the British Empire and imperialism, as a “relational history” Centered around the Core (Great Britain) and the Periphery. (British India).
- (2) To master new viewpoints for historical consideration on the changing r

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション——グローバルヒストリーとイギリス帝国・南アジア
2. 吉岡明彦『インドとイギリス』が提起した論点・1——自由貿易帝国主義とマンチェスター
3. 吉岡明彦『インドとイギリス』が提起した論点・2——金融資本論と「本国費」・多角的決済機構
4. 世紀転換期の英印関係・1——綿業の発展とアジア間貿易：ボンベイ、大阪、マンチェスター
5. 世紀転換期の英印関係・2——ジェントルマン資本主義論とロンドン・シティ
6. 世紀転換期の英印関係・3——第一次世界大戦とインド：帝国関係の転換点
7. 戦間期（1930年代）の英印関係・1——帝国特惠体制とインド・ナショナリズム
8. 戦間期（1930年代）の英印関係・2——日印会商（ブロック経済論）再考
9. 戦間期（1930年代）の英印関係・3——第二次世界大戦とインド：スターリング残高の累積
10. 戦後の英印関係・1——早期の脱植民地化とコロambo・プラン
11. 戦後の英印関係・2——インド援助コンソーシアム、重化学工業化とアメリカ
12. 戦後の英印関係・3——「緑の革命」（農業開発）と世界銀行
13. 現代のイギリス——Brexit、ヨーロッパ統合と連合王国の「未来」
14. 現代のインド——インド太平洋世界の形成とインドの開発主義、日本
15. グローバル化時代の歴史学——グローバルヒストリーの課題

8. 成績評価方法：

論述式の筆記試験で行う。

9. 教科書および参考書：

- ・秋田茂『イギリス帝国の歴史—アジアから考える』中公新書、2012年。
- ・吉岡明彦『インドとイギリス』岩波書店、1975年（2019年復刊）。
- ・秋田茂『帝国から開発援助へ—戦後アジア国際秩序と工業化』名古屋大学出版会、2017年。
- ・Shigeru Akita (ed.), Gentlemanly Capitalism, Imperialism and Global History, (London and New York: Palgrave, 2002), 255pp. Introducti

10. 授業時間外学習：

19世紀末から21世紀初頭現在までの、約150年間の英印関係史を中心に、新たな世界史を考察する素材を提供する。そのため、幅広い世界史の知識が必要になるため、教科書・参考書だけでなく、関連の諸文献を読んで最低限の歴史の流れを事前に理解するように努力して欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business

12. その他： なし。

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB52404, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目：中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目) : Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval Eu

5. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

通常の授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読と質疑応答。1 ページを 2 回で読む予定です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。

9. 教科書および参考書：

Mireille CHAZAN, 'La representation de l'Empire chez Hughes de Fleury, Orderic Vital et Robert de Torigni', Historiographie médiévale normande et ses sources antiques (Xe-XIIe siècle), dir. Pierre Bauduin et Marie-Agnès Lucas-Avenel, Caen, 2014.

10. 授業時間外学習：

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB62404, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目：中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目) : Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval Eu

5. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

通常の授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第1回目から訳読と質疑応答、前期の続きを、1ページを2回で読む予定です。また前期のレポートに関する発表会もおこないます。学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

8. 成績評価方法：

授業参加状況（50%）とレポート（50%）。

9. 教科書および参考書：

Mireille CHAZAN, 'La representation de l'Empire chez Hughes de Fleury, Orderic Vital et Robert de Torigni', Historiographie médiévale normande et ses sources antiques (Xe-XIIe siècle), dir. Pierre Bauduin et Marie-Agnès Lucas-Avenel, Caen, 2014.

10. 授業時間外学習：

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

**科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)**

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治 (准教授)

講義コード：LB54206, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

**【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】**

1. 授業題目： ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討

2. Course Title (授業題目) : Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Revolutions in Modern Europe.

3. 授業の目的と概要：

演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The themes of this seminar are to read monographs about the modern/contemporary European history in English, and to guide basic skills for further historical research.

5. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

To upgrade the ability to read and comprehend English text and to develop the basic abilities for academic researches.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について

2. 試訳の検討と討論 (1)a

3. 試訳の検討と討論 (1)b

4. 試訳の検討と討論 (1)c

5. 試訳の検討と討論 (1)d

6. 試訳の検討と討論 (1)e

7. 小括 (1)

8. 試訳の検討と討論 (2)a

9. 試訳の検討と討論 (2)b

10. 試訳の検討と討論 (2)c

11. 試訳の検討と討論 (2)d

12. 試訳の検討と討論 (2)e

13. 小括 (2)

14. 課題発表 (1)

15. 中間的総括 (1)

8. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

9. 教科書および参考書：

望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004年；Bailey Stone, The Anatomy of Revolution Revisited: A Comparative Analysis of England, France, and Russia, New York, 2014.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他： 面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp



**科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)**

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治 (准教授)

講義コード：LB64207, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

**【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】**

1. 授業題目： ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討

2. Course Title (授業題目) : Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Revolutions in Modern Europe.

3. 授業の目的と概要：

演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The themes of this seminar are to read monographs about the modern/contemporary European history in English, and to guide basic skills for further historical research.

5. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

To upgrade the ability to read and comprehend English text and to develop the basic abilities for academic researches.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について

2. 試訳の検討と討論 (1)a

3. 試訳の検討と討論 (1)b

4. 試訳の検討と討論 (1)c

5. 試訳の検討と討論 (1)d

6. 試訳の検討と討論 (1)e

7. 小括 (1)

8. 試訳の検討と討論 (2)a

9. 試訳の検討と討論 (2)b

10. 試訳の検討と討論 (2)c

11. 試訳の検討と討論 (2)d

12. 試訳の検討と討論 (2)e

13. 小括 (2)

14. 課題発表 (1)

15. 中間的総括 (1)

8. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

9. 教科書および参考書：

望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004年；Bailey Stone, The Anatomy of Revolution Revisited: A Comparative Analysis of England, France, and Russia, New York, 2014.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他： 面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：阿部 ひろみ (非常勤講師)

講義コード：LB52208, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目：中世後期ヨーロッパ史の研究

2. Course Title (授業題目)：Study in the Late Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

ドイツ語学術文献の訳読を通して、ドイツ語能力を高めると同時に、学術文献の読解力をつける。さらに文献読解に必要な事典等についての知識を習得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Through reading academic theses in German, students will improve their German and learn the structure of the academic text. In addition, information about important Handbooks and Encyclopedias will be provided.

5. 学習の到達目標：

ヨーロッパ史で卒業論文を作成する上で必要となる語学力・読解力およびその他の学術的知識を獲得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop their language ability and reading skills as preparation for writing the bachelor thesis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

ドイツ語の学術文献を参加者で順番に訳読する。参加者は担当箇所の訳文を授業前に作成し、メールで提出する。学期末には、ドイツ語テキストを日本語に訳出する課題が出される。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50 パーセント) と期末課題 (50 パーセント)

9. 教科書および参考書：

授業には独和辞典を持参。読解する文献は初回に配布する。その他事典等については授業中に適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

授業前に、その日に読み進める文献の範囲を参加者全員が担当箇所以外の部分も含めて読解し、予習しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：阿部 ひろみ (非常勤講師)

講義コード：LB62206, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目：中世後期ヨーロッパ史の研究

2. Course Title (授業題目)：Study in the Late Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

ドイツ語学術文献の訳読を通して、ドイツ語能力を高めると同時に、学術文献の読解力をつける。さらに文献読解に必要な事典等についての知識を習得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Through reading academic theses in German, students will improve their German and learn the structure of the academic text. In addition, information about important Handbooks and Encyclopedias will be provided.

5. 学習の到達目標：

ヨーロッパ史で卒業論文を作成する上で必要となる語学力・読解力およびその他の学術的知識を獲得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop their language ability and reading skills as preparation for writing the bachelor thesis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

ドイツ語の学術文献を参加者で順番に訳読する。参加者は担当箇所を訳文を授業前に作成し、メールで提出する。学期末には、ドイツ語テキストを日本語に訳出する課題が出される。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50 パーセント) と期末課題 (50 パーセント)

9. 教科書および参考書：

授業には独和辞典を持参。読解する文献は初回に配布する。その他事典等については授業中に適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

授業前に、その日に読み進める文献の範囲を参加者全員が担当箇所以外の部分も含めて読解し、予習しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

